遠鉄 防災力アップ

有資格の担当新設

泊まり込みの研修

能登半島地震や南海トラフ地震臨時情報で大規模災害への意識が強まる中、遠州鉄道が従業員の災害対応力を高める取り組みに力を入れている。新たな担当を4月に設け、泊まり込みの研修も実施。県西部地域に多くの顧客を抱えるグループ全体の底上げも図る考えだ。

（鈴木みのり）

総務部内に新設された防災担当は2人。1人は知識や技能を認定された「防災士」の民間資格を持ち、もう1人の資格取得も予定している。これまで遠鉄の事業継続計画（BCP）の見直しに取り組み、水や食料の備蓄、家具の転倒防止といった対策について社内に情報発信してきた。

9月26日午後から27日午前にかけては、管理職32人が浜松市防災学習センターでの研修に参加。全国で研修や講演を行う元消防学校教官の鎌田修広さんを講師に招き、過去の地震の事例や備えについての講義を受け、実践演習にも臨んだ。

上階段を上り下りできる補助装置が付いた車いすに試乗する研修参加者たち
左壁に備え付けられたはしごを使って脱出訓練を行う参加者
右研修で鎌田修広さんの講義を聞く参加者＝いずれも浜松市中央区で

地域根差す事業「顧客の命守る」

演習では、外へ脱出するはしごを使う訓練や高台への避難などを行い、階段を上り下りできる補助装置を備えた車いすにも試乗。食事は乾パンなど備蓄可能な食品に限り、水分はペットボトルの水で補給した。災害時用の簡易トイレを使い、就寝時は床の上に段ボールや毛布、新聞紙などを敷いて横になった。

研修の意義について、防災担当の吉沢弘典さんは「災害の発生直後は火をおこせないかもしれない。実際に近い形を体験してほしかった」と説明。参加者からは「寝られなかった」「被災後も自宅で生活するための準備が必要だと思った」などの感想が聞かれたという。研修は11月まで計4回予定している。

防災担当を新設して以来、グループ会社からも「どう対応すればよいか」との問い合わせが増加。バスやスーパー、老人ホームなど、展開する事業の多くが地域に根差すことから、吉沢さんは「（従業員の能力向上は）顧客の命と地域の安全を守ることにつながる」と話し、グループ全体で災害に対応する力を強めていく考えを強調した。

静清信金 預金量1兆円

静清信用金庫（静岡市葵区）は9月末時点の預金量が1兆118億円になったと発表した。県内の信金で預金量1兆円を超えるのは5例目。2022年

NNP電子 一貫生産

磐田

二輪車などの電子制御ユニットを手がけるNNP電子は、磐田市匂坂中（におさかなか）の本社隣に工場を新設して稼働を開始した。分散していた設備を集約して一貫生産できる体制を整えたほか、従業員がくつろげる環境をつくることも意識した。

防災人材育成へ宿泊型研修

遠州鉄道社員 災害心理学ぶ

遠州鉄道（浜松市中央区）はこのほど、防災人材の育成に向けた宿泊型の社内研修を市防災学習センター（同区）で始めた。実践を重視した1泊2日のプログラムで、11月までに4回に分けて社員約100人が受講する。

初回は丸山晃司社長を含めた管理職32人が参加し、会場で配布された2リットルの飲料水や乾パン、ようかんなどで翌朝まで過ごすよう指示を受けた。

元消防学校教官で人材育成のタフ・ジャパン（横浜市）の鎌田修広社長を講師に迎えて災害心理などを学び、津波や水害時にタラップを使って屋上に避難する垂直避難や高台避難を体験した。ホールでの就寝時は、人数分には足りない段ボールや毛布を分け合って過ごした。

吉沢弘典防災担当課長は「従業員が自分の命を守れる防災力を付け、いざという時にお客さまの安全確保ができるよう備えていく」と話した。

脚立とタラップを使って垂直避難を体験する遠州鉄道の社員＝浜松市中央区の市防災学習センター